

男性のための介護講座～介護に備えて～



介護者の3人に1人は男性介護者となっています。（※「在宅介護実態調査の集計結果～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～」：那覇市）

「仕事と介護が両立できる介護計画」を提供している「ケアプランもくれん」（居宅介護支援事業所）の米城智淳さんには、介護保険制度と介護サービスの活用法や認知症の基礎知識についてお話をさせていただきます。

また、学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校 学校長の諸見里安知さんには、両親の看取り介護の経験から「介護と人生」をテーマに、お話をさせていただきます。

親や配偶者などの介護に直面したとき、男性が介護とうまく向き合うために必要な心構えを介護のプロであるお二人に学びます。

日時：9月28日(土) 午後1時～4時

場所：なは女性センター 学習室(なは市民協働プラザ1階)

定員：36人(事前申込先着順)／対象：関心のある方

自分自身の「若い」という人生の集大成に向かうにあたって、これまでの経験が生かされると信じています。参加者のみなさんと共に「介護と人生」について愉しく考え、学び合える時間となれば幸いです。

よねしろ ともあつ

講師：米城 智淳さん

（「ケアプランもくれん」
主任介護支援専門員・管理者）



☆プロフィール

1981年生まれ。沖縄福祉保育専門学校保育科を卒業後、介護福祉科に進学。

西原町の介護老人福祉施設のデイサービスに就職。特別養護老人ホームの介護士、ユニットリーダーを経て、現在、株式会社木蘭「ケアプランもくれん」の管理者、主任ケアマネジャーとして従事している。令和2年那覇市協働大使に任命される。令和5年度介護支援専門員協会那覇支部支部長として『第9次なは高齢者福祉プラン』高齢者福祉介護専門分科会委員就任。令和6年度沖縄県介護支援専門員協会那覇ブロック推薦理事就任。

もろみざと やすとも

講師：諸見里 安知さん

（学校法人 大庭学園
沖縄福祉保育専門学校 学校長）



☆プロフィール

1988年3月 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。同年4月 特別養護老人ホーム（寮父）の就職を始めとし、在宅介護支援センターや介護老人保健センター、居宅介護支援センターにて勤務。沖縄福祉保育専門学校 教頭(2011年～2017年)を経て現在に至る。主な地域活動では、西原町地域福祉計画策定委員(1997年～現在)。与那原町地域福祉計画策定委員 委員長(2009年～現在)。沖縄県高齢者福祉対策推進協議会委員(2017年～現在)。30年以上介護現場、介護教育の仕事に携わる。自身も在宅で両親の介護を行った。



講座のお申込みは、
左記のQRコードからできます。

*市在住・在勤・在学の方は一時保育・手話通訳が利用できます。
9月20日(金)までにお申し込みください。

こどもの「権利」とヤングケアラー

～私たちにできること～(入門編)

こども家庭庁のサイトにて「『ヤングケアラー』とは、本来おとなが担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものこと。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります」とあります。

2023年に発表された沖縄県ヤングケアラー実態調査でもヤングケアラーと思われる子が「やりたいことができない」「世話で感じるつらさ・ストレス」を抱えていることが分かりました。しかし、家庭内のプライベートな問題であるため、本人にもその自覚がなかったり、知られたくない、相談できないなどのデリケートな部分が見え、一方で周囲のおとなも「家庭の問題に関わることの抵抗感」もあり、問題が表面化しにくいことが課題となっています。

本講座では、ワークショップを通してヤングケアラーの実態やその影響、こどもの権利を知ること、どのように関わっていけばよいかを考える機会とします。



日時: **10月19日(土) 午前9時30分～11時30分**

場所: なは女性センター学習室(なは市民協働プラザ1階)

講師: おきなわCAPセンター 上野さやかさん・三枝菜美子さん

定員: 36人(事前申込先着順)

対象者: 関心のある方

* 市在住・在勤・在学の方は、一時保育・手話通訳が利用できます。
10月11日(金)までにお申し込みください。

講座のお申込みは、
下記のQRコード
からできます。



NPO法人おきなわCAPセンターのご紹介

1996年発足。CAPとは、Child Assault Prevention(こどもへの暴力防止)の頭文字をとったもの。こどもが本来もっている力を引き出し、自尊感情を育て、人権を侵害するあらゆる暴力を防止するための理念や知識、技術をこどもやおとなに伝え広める事業を行っている。提供するワークショップは①人権意識(あなたには安心・自信・自由の権利がある)②エンパワメント(問題解決能力を引き出す)③コミュニティ(家庭・学校・地域をつなぐ)という特徴がある。これまでも幼小中学校にて「こどもワークショップ」、地域・教職員向け等の「おとなワークショップ」など多数の実績があり、那覇市内中学校を対象とする「思春期の心と体」のための意識啓発事業も行っている。



★女性問題やジェンダーに関する図書の貸し出し及び資料の閲覧ができます。★貸出し期間: 2週間 お一人2冊まで

オススメ本を
ご紹介します♪

『男の介護』失敗という名のほころび

吉田 利康著/日本評論社発行/2010年2月15日

「仕事人間の無骨な介護にも「介護の真実」がやどる」



介護制度がなかった時代に自宅で妻を看取った著者が、手探りで「介護」について向き合っていく様子が丁寧に綴られている本書。内容は二部構成になっており、第一部では筆者と四人の男性それぞれの介護体験記録が掲載され、第二部では、介護者やヘルパーといった専門職と被介護者、双方の視点から介護の現実が語られています。

男性介護者には「悲惨」というイメージがついてまわります。その背後にあるのは「介護は女の仕事」という考えであり、根本は儒教文化と思われます。それらの背景を踏まえて、「女性の介護」をジェンダー問題から学んだ著者の語りと視座のあたたかさは、本書全体を通して伝わってきます。本が出版された当時、七十五歳以上の男性は「介護は女の仕事」と思っている人たちが大多数でしたが、時代はすでに男女共同参画社会であると同時に核家族化時代。男性の介護の実例から、心構えを学ぶことができる一冊です。

追悼シンポジウム～もろさわようこが沖縄で育んだ「志縁」～

開催日：2024年8月10日(土) 午後2時～4時 (参加者：対面31人・オンライン34人)

講師：宮城晴美さん(沖縄女性史家)・源啓美さん(「志縁の苑」評議員)・河原千春さん(信濃毎日新聞記者)

女性史研究家のもろさわようこさん(1925～2024年)が、沖縄で感じ、考えたことをまとめた書籍『沖縄ともろさわようこ女性解放の原点を求めて』が2023年8月に出版されました。

この本の編者である、源啓美さん(一般社団法人「志縁の苑」評議員)と河原千春さん(信濃毎日新聞記者)、そしてこの本に寄稿した、沖縄女性史家の宮城晴美さんをパネリストに、もろさわさんの生涯を振り返り、彼女が沖縄で育んだ「志縁」についてお話をいただきました。

会場内には、幼少期のもろさわさんや、市川房枝さん、平塚らいてうさんと一緒にの写真などが貼られ、生前の姿を振り返りながら、追悼シンポジウムが行われました。



パネリストの河原さん(右)と源さん(中央)、宮城さん(左)

パネリスト

河原千春さん
のお話から

2013年5月、もろさわさんが88歳のとき、交流拠点「歴史を拓くはじめの家」を「志縁の苑」とし、一般財団法人を立ち上げる時の取材で初めて出会いました。しかし、2007年に信濃毎日新聞に入社するまでもろさわさんのことを知らなかったそうです。

2019年2月13日から企画連載「夢に飛ぶ—もろさわようこ、94歳の青春」、初回は沖縄の「志縁の苑うちなあ」から始め、連載を2021年に『志縁のおんな』にまとめました。もろさわさんの仕事の意義の一つに「婦人」

という言葉が女性を示す言葉として一般的に使われた時期に、蔑称だった「おんな」の視点をあえて打ちだして、女性差別を見据えたことを挙げられました。

もろさわさんの造語である「志縁」について、もろさわさんは、「私たちはいろんな矛盾を被っているけど、それをなくそうとして、おんなたちが動き出してね。(・・・)いわゆる血縁、地縁という宿命に囚われない、自由の中で、自分はこう生きたいという生き方をお互いに、響き合わせるのが志縁ではないかと思っています。」と、2023年12月30日のインタビューで応えています。

パネリスト

源 啓美さん
のお話から

「沖縄をいつも踏みつけてきた、ヤマトの側の人間」として、沖縄に行くことをためらっていたもろさわさんが、初めて沖縄を訪れたのは1972年。宮古島のウヤガン(祖神祭)で、女たちが断食や山ごもりを繰り返し、神のよりましとなって、命がけて村人や島の幸いを祈る姿に、「元始、女性に太陽であった」とする女性解放の原点を確信したことから、沖縄との関りを深めるきっかけになったそうです。

金武湾をめぐる石油備蓄基地の建設に反対する住民運動「反CTS闘争」では、屋慶名の闘争小屋に通う中で、地元の学生から「ヤマトウンチュー帰れ」と責められたもろさわさんは、「ヤマトウンチューだからここにいてやるべ

きことがある」と言い切ったことや、恩納村に「都市型戦闘訓練施設」建設予定の動きに反対の30時間のハンガーストライキに参加し、一晩中、村人と語り明かしたこと等、常に現場主義を貫いたもろさわさんのエピソードについて話してくれました。

体調を悪くして入院した時、源さんに「私にはまだまだやるべきことがある。今、死ぬわけにはいかない!」と、97歳のもろさわさんは語ったそうです。ラジオ沖縄のディレクターとして1974年に、もろさわさんに出会ってから、これまでの長い時間を共有した源さん、亡くなった後も、「いまだに尻をたたかれ続けている」と、話してくださいました。



パネリスト

宮城晴美さん
のお話から

沖縄の女性史研究は、先島諸島についての調査が少なく、もろさわさんの「与那国だより」によって「女性医介輔」がいたことを知り衝撃をうけました。「陸軍看護婦だった人」で「町長婦人」だった仲本トミさん(大正9年生)は、唯一の女性医介輔*でした。もろさわさんが、直接現地に足を運び、旅行者ではなく、何日も滞在しつづけ、数年にわたって島の女性たちと交流し、信頼関係を築いていたからこそ、仲本トミさんの名前を歴史に刻み、1948年に与那国町議会議員に女性が3人当選した背景について記録できたのだと思っています。と宮城さんは語りました。

1991年の「市民女性学」講座で、もろさわさんは、中国からの文字の伝来とともに男女差別の思想が浸透することになったと指摘しています。「部首が女編の漢字では、姦(かしま)しいや鸚(なぶ)る、好き、嫌いなど、文字が文化として作られるとき、女性にたいする徹底した差別感で作られていったのです。私たちはそれらを学ぶことで差別を受け入れ伝えている。つきつめれば文字を作り直すことから始めないといけない」と当時語っています。そのことを受けて、宮城さんは、「漢字を直すことは難しいけれど、女性の視点から言葉は作れます。例えば、「売春」を「売買春」のように。」と話してくださいました。

*「医介輔」とは、琉球列島米国民政府が医師不足を補うため1951年の布令によって定めた職業で、日本軍の衛生兵や戦前の鍼灸師など、制限付き医療従事者、すなわち医師免許を持たない「医師」、それが医介輔です。



▲会場での参加者からも、もろさわさんとのエピソードを語っていただきました。

☆パネリストお三方のもろさわさんへの愛情を感じることで元気と勇気をいただきました。オンライン参加のみなさん、今回は、女性センターでお待ちしております♪

相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報

- 電話相談 ● 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)



098-861-7515

相談時間 ▶ 月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

面接相談
申込
QRコード



**8月1日から相談室「ダイヤルうない」の
面接相談の申込みがオンライン
でも、できるようになりました！**

面接相談のオンラインお申込みは、仮受付です。正式な面談日は相談員から、お電話させていただきます。

周辺地図



■ モノレール「古島駅」から 10分

- 新都心区内(10番)なは市民協働プラザ前バス停すぐ (8番)銘苅1丁目バス停5分 (99番)那覇国際高校前7分
- 県道82号線側 古島バス停10分
- 国道330号線側 真嘉比バス停・興南高校前バス停各10分

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」は、市長がパートナーシップ・ファミリーシップの関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、「登録証明書」及び「登録証明カード」を交付するものです。

- 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

登録数 66 組

うちファミリーシップ **3 組**

2024年9月15日現在
これまでに登録された方へも「登録証明カード」の交付ができます。

■ お問い合わせ・申請の予約

TEL. **098-951-3203** ◆ 月～金:午前9時～午後5時
* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始(12/29～1/3)除く

第27回 那覇市男女平等週間

市では、沖縄の女性が初めて選挙権を行使した1945年9月20日を記念して、「那覇市男女共同参画推進条例」において、毎年9月20日を含む1週間を「男女平等週間」と定め、社会のあらゆる分野で男女平等が確立できることを目的に啓発活動を実施しています。

パネル展示

「沖縄県や那覇市における家庭や職場での男女の平等感などの状況」に関するパネル展示をします。

期間:令和6年9月20日(金)～9月28日(土)

場所:なは市民協働プラザ1階(なは女性センター)

◆ なは女性センター講座について

* 受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、申込みQRコードでお申し込みください。また手話通訳、一時保育の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問い合わせ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp
なは女性センターホームページQRコード⇒



開館時間

月～金:午前9時～午後9時 年末年始(12/29～1/3)
土曜日:午前9時～午後5時 日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

休館日

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」をご利用ください。ご利用は**有料**です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

☆なは女性センター利用者の駐車場利用 一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間ごとに	100円
※利用時間が1時間に満たない場合は1時間として計算。	